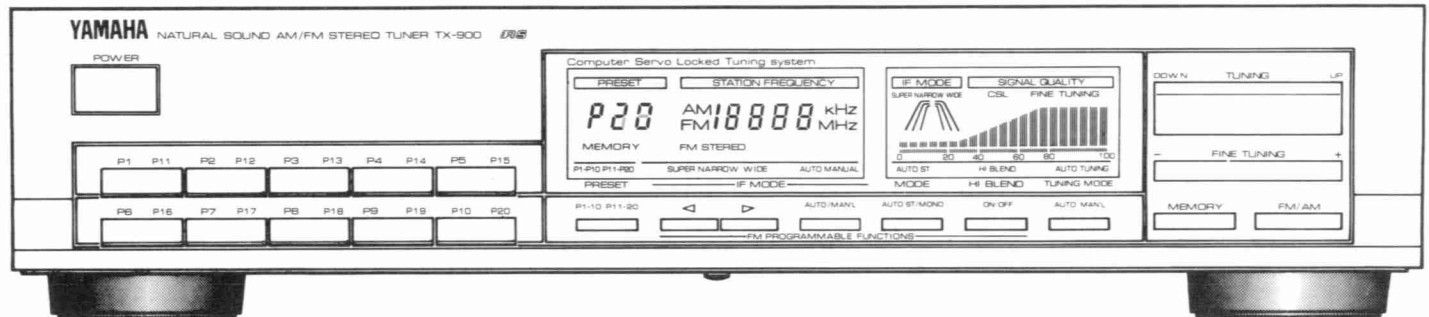


TX-900

NATURAL SOUND AM/FM STEREO TUNER

取扱説明書



ご使用の前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・ステレオチューナーTX-900をお買い求めいただきまことにありがとうございます。

TX-900の優れた性能を発揮させるとともに、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

目次

目次	1
特長	2
ご使用前の注意	3
各部の名称と機能	5
接続のしかた(リアパネルの接続方法)	7
接続のしかた(アンテナの接続方法)	9
FM、AM放送の受信のしかた	11
よりよい受信のために	13
プリセット・メモリーとプリセット選局	15
参考資料	17
故障かな、と思ったら	18
ヤマハホットライン・サービスネットワーク	18

特長

・高性能FMチューナー部

フロントエンドは高感度MOS FETを採用したRF増幅段、妨害特性に強いデュアルゲートMOS FET採用のミキサー段、さらに高SN比・高耐圧のツインバラクターダイオードを採用。IF段は電波の状態に応じて選択できる3モードの中間周波数増幅段を採用。MPX段は妨害ノイズを効果的にカットする新タイプのMPX ICを採用。またローパスフィルターによって周波数特性を悪化させないピュア・キャンセル・タイプのパイロット信号キャンセラー回路を内蔵。

高感度・低歪率・高選択度を実現すると同時に、高い信頼性を得ています。

・高性能AMチューナー部

2連バラクターダイオード、非同調高利得RFカスコード増幅段、二重平衡型差動ミキサーよりなるRF段。

IF同調コイルと高選択度のセラミックフィルター使用のIF段と低歪率検波回路で構成されるAMチューナー部は、電界性の雑音に強い低いインピーダンスループアンテナと共にAM放送を高感度高忠実度で安定に受信します。

・3ウェイ・チューニング

オート、マニュアル、プリセットの3方式による選局が可能。正確で操作性のよいチューニングができます。

・ファイン・チューニング

FMは0.01MHz、AMは1KHzの単位できめ細かく周波数が調整でき、クリアで安定した放送が受信できます。

・CSL(コンピューター・サーボ・ロック)チューニング

PLLモードとFMサーボモードの2つのチューニングモードにより、正確でひずみの少ないFM受信ができます。

・FM・AM20局ランダム・プリセット

放送局をFM・AMランダムに合計20局メモリーでき、PRESETボタンを押すだけで希望する放送局を受信できます。

・マルチ・ステータス・メモリー

FMの放送局をプリセット・メモリーする場合は、IF MODE、HI BLENDのON・OFF、FM MODEのAUTO STEREO/MONOも同時にメモリーできます。さらにFINE TUNINGは、FM・AMとも同時にメモリーできます。

・IFモード自動3段切り換え

FM放送受信時に、電波の状態に合わせてIFモードが自動的に切り換わり、クリアな混信のない放送が受信できます。またIFモードは手動でも選択できます。

・高品位マルチカラーLCDディスプレイ

多彩な機能が適確に使いこなせるよう、大型LCDディスプレイを採用。またシグナル・クオリティ・メーターは24段階にきめ細かく表示され、最適なチューニングが可能です。

・ラスト・チャンネル・メモリー

電源を切っても、最後の選局が記憶されています。しかも大容量キャパシターの採用で、電池交換のわずらわしさがありません。

・RSアンプと接続すればリモコン操作OK

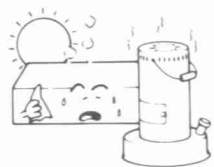
RSマークの付いたヤマハ製アンプ(AVC-50など)に接続すると、アンプのリモートコントロールで本機を操作(プリセット選局)できます。

・シンプルなデザイン、操作性豊かなレイアウト

ヤマハのクラフトマンシップが表現された、美しくシンプルなスタイリングと機能美あふれるパネルレイアウトです。

ご使用前のご注意

高温、冷温はさけて



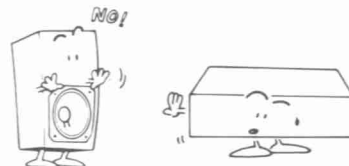
直射日光や暖房器具のそばなど高温になる場所(周辺温度35℃以上)、または温度が低い場所(周辺温度-5℃以下)は機能を維持できない場合がありますのでさけてください。

ほこり、湿気はさけて



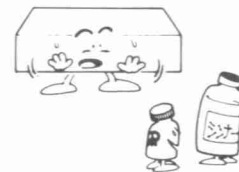
ほこりの多い場所に置くと接触不良や雑音の発生等の原因になります。また湿気の高い場所は金属部品にサビが生じたり故障の原因となり、性能をそこなうことになります。

振動や磁気はさけて



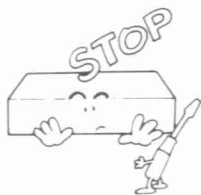
振動の多い不安定な場所はさけてください。また磁気の強い場所(テレビやモーターの近く)に置くと、雑音の発生等の原因になります。

薬物は厳禁



ベンジンやシンナー系の液体でふいたり、エアゾールタイプの殺虫剤を散布しないでください。変色等の原因になります。お手入れは必ず柔らかい布でからぶきしてください。

ケースは開けないで



トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。異物などが入った場合は、すぐ電気プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

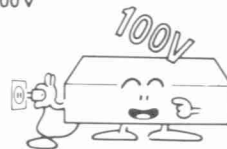
電気コードは大切に



コンセントから抜くときは、コードをひっぱらないで必ずプラグを持って抜いてください。長時間ご使用にならないときは、電源コードのプラグをコンセントからはずしておいてください。

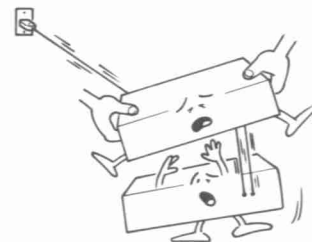
国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V



本機は国内仕様です。必ずAC100V±10V、50/60Hzの範囲内でお使いください。100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

セットを移動するときは



接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他のセットとの接続コードをはずしてから動かしてください。

落雷に対しては



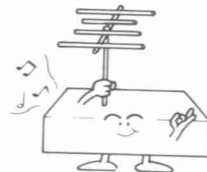
落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜いてください。アンテナからのケーブルを端子からはずし、ケーブルには絶対さわらないようにしてください。

水に濡れたら



セットに水をこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。そのまま電源を入れますと、感電や故障の原因となりますのでご注意ください。

FM専用アンテナを



クリアーなFM放送をお楽しみいただくために、FM専用アンテナのご使用をおすすめします。

取り扱いはやさしく、
ていねいに



スイッチやつまみ、キャビネットなどに無理な力を加えることはさけてください。

もう一度、お調べください



故障かな?と思われたら、まず18ページの「故障かな、と思ったら」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。

保証書の手続きはお済みですか

お買い求めいただいた際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中に万一サービスの必要がある場合、実費をいただくことがあります。



取扱説明書は保証書とともに

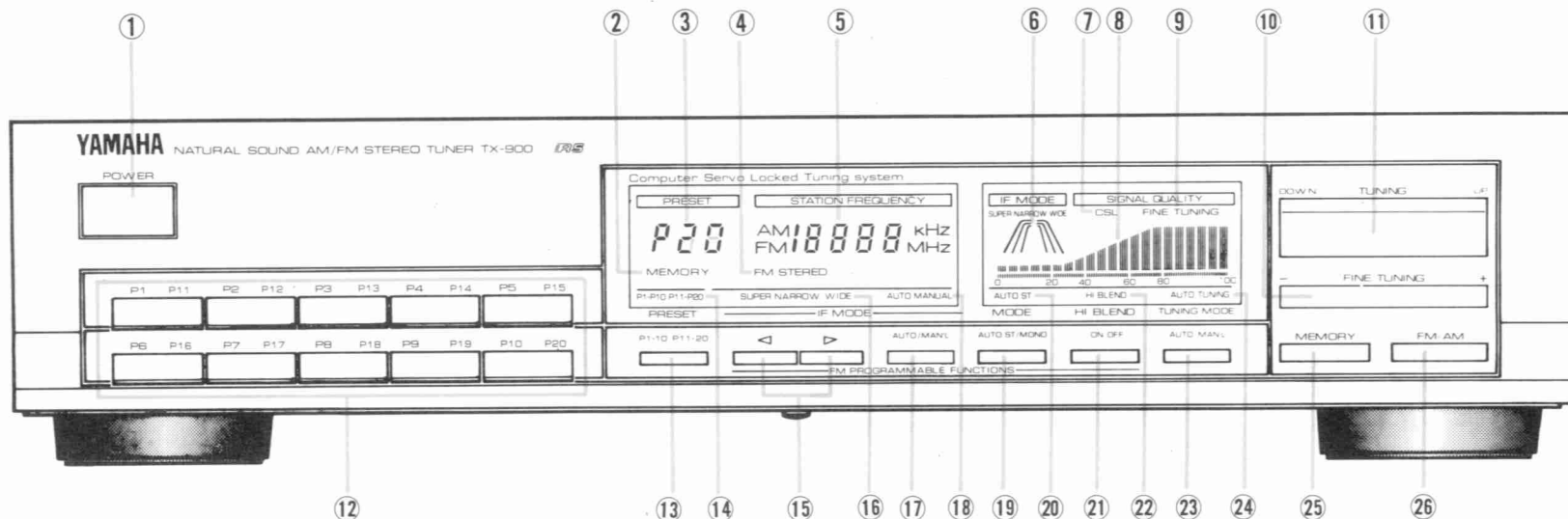


ファイルなど

大切に保管してください。

各部の名称と機能

〈フロントパネル〉



① ^{パワー}POWERスイッチ

このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

② ^{メモリー}MEMORY表示インジケータ

MEMORYボタンを押すと点滅します。→15ページ

③ ^{プリセット}PRESET番号インジケータ

プリセットボタンを押すと、選んだプリセット番号が表示されます。

→15ページ

④ ^{エフエム}FM STEREO表示

FMステレオ放送をAUTO STEREO MODEで受信しているときに点灯します。→14ページ

⑤ 周波数インジケータ

選局した放送の受信周波数をデジタルで表示します。→11ページ

⑥ ^{アイエフ}IF MODE表示②

FM放送受信時に選んだIFモードを3種類の図型で表示します。→13ページ

⑦ CSL表示

FMチューニングの際、CSLモードの作動中に点灯します。→14ページ

⑧ ^{シグナル}SIGNAL QUALITYメータ

放送を受信する際、チューナーに入ってくる電波の強さを表示します。このメータが多く点灯するようにアンテナの高さや方向を調節してください。→9ページ

⑨ ^{ファイン} ^{チューニング} **FINE TUNING**表示

^{ファイン} ^{チューニング} FINE TUNINGボタンを押すと点灯します。→13ページ

⑩ ^{ファイン} ^{チューニング} **FINE TUNING**ボタン

このボタンにより、よりきめ細かな受信ができます。+側を押すと高くなり、-側を押すと周波数は低くなります。→13ページ

⑪ ^{チューニング} **TUNING**ボタン

放送局を選局するボタンです。^{アップ}UP側を押すと周波数が高くなり、^{ダウン}DOWN側を押すと低くなります。→11ページ

⑫ ^{プリセット} **PRESET**ボタン

FM、AM、合計20局の放送局を記憶(プリセット)しておき、呼び出すことができます。→15ページ

⑬ ^{プリセット} **PRESET**切替ボタン

10のプリセットボタンを20に活用するボタンです。ボタンを押して〔P1~10〕、〔P11~20〕を選びます。→15ページ

⑭ ^{プリセット} **PRESET**モード表示インジケータ

プリセット番号の〔P1~10〕、〔P11~20〕を切り換えたときに、そのどちらかであるかを表示するインジケータです。→15ページ

⑮ ^{アイエフ} ^{モード} **IF MODE**選択ボタン

FM放送を受信するとき、あなたの手で最適なIFモードを選ぶボタンです。

→13ページ

⑯ ^{アイエフ} ^{モード} **IF MODE**表示①

FM放送受信時に選んだIFモードを3段階(^{スーパーナロー}SUPERNARROW、^{ナロー}NARROW、^{ワイド}WIDE)で表示します。→13ページ

⑰ ^{アイエフ} ^{モード} ^{オート} ^{マニュアル} **IF MODE AUTO/MAN'L**切替ボタン

FM放送を受信するとき、IFモードを自動(^{オート}AUTO)にするか、手動(^{マニュアル}MAN'L)にするか切り換えるボタンです。→13ページ

⑱ ^{アイエフ} ^{モード} ^{オート} ^{マニュアル} **IF MODE AUTO/MAN'L**表示

IFモードの選択が自動(^{オート}AUTO)か、手動(^{マニュアル}MAN'L)か表示するインジケータです。

→13ページ

⑲ ^{エフエム} ^{モード} **FM MODE**選択ボタン

FMのステレオ放送をステレオで聞くか、モノラルで聞くか選ぶボタンです。

→11, 14ページ

⑳ ^{オート} ^{ステレオ} **AUTO STEREO**表示

^{エフエム} ^{モード} FM MODE選択ボタンを押し、^{オート} ^{ステレオ} ^{モード} AUTO STEREO MODEにした場合に点灯します。→11, 14ページ

㉑ ^{ハイ} ^{ブレンド} **HI BLEND**ボタン

FMステレオ放送の受信時、耳ざわりな高域雑音を除くときに使います。

→14ページ

㉒ ^{ハイ} ^{ブレンド} **HI BLEND**インジケータ

HI BLENDボタンを押したときに点灯します。→14ページ

㉓ ^{チューニング} ^{モード} ^{オート} ^{マニュアル} **TUNING MODE AUTO/MAN'L**切替ボタン

放送局の選局を自動(^{オート}AUTO)にしたり、手動(^{マニュアル}MAN'L)にしたり切り換えるボタンです。→11ページ

㉔ ^{オート} ^{チューニング} **AUTO TUNING**表示

^{チューニング} ^{モード} TUNING MODEが自動(^{オート}AUTO)のときに点灯します。→11ページ

㉕ ^{メモリー} **MEMORY**ボタン

周波数を記憶(プリセット)させるときに使います。→15ページ

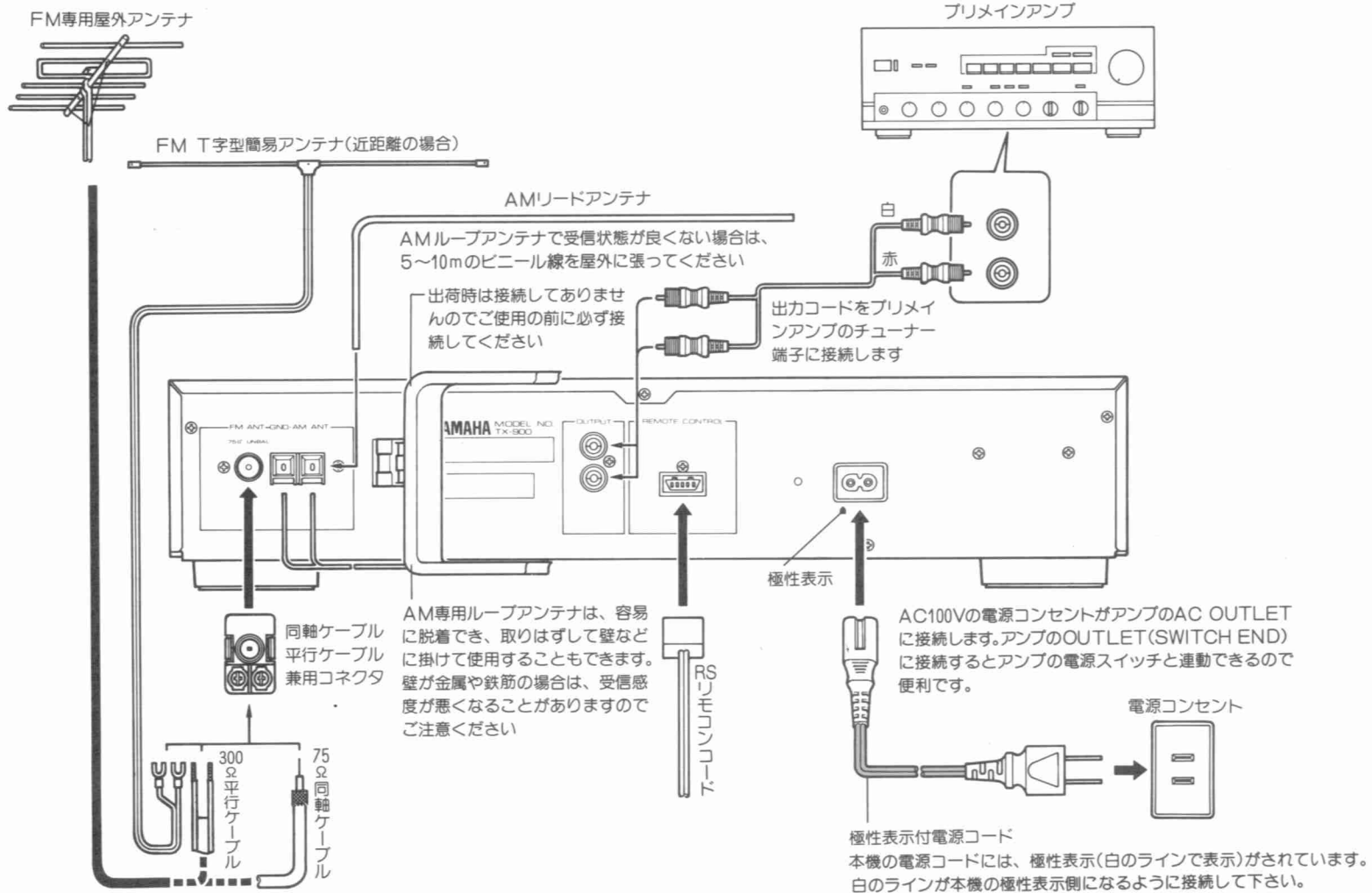
㉖ ^{エフエム} ^{エーエム} **FM/AM**切替ボタン

FM放送かAM放送かを選ぶボタンです。→11ページ

接続のしかた(リアパネルの接続方法)

接続図(リアパネル)

・接続は必ず電源を切ってから行ってください。

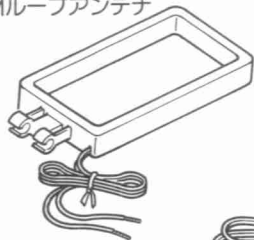


付属品

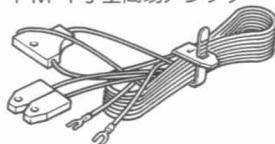
・全部あることを確認してください。

- ・ AMループアンテナ
- ・ FM T字型簡易アンテナ
- ・ 同軸ケーブル・平行ケーブル兼用コネクタ
- ・ 出力コード
- ・ 電源コード

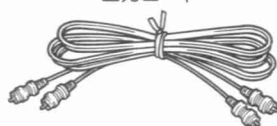
AMループアンテナ



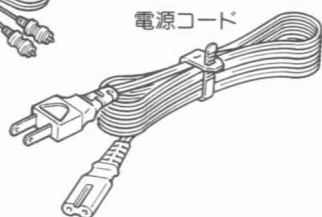
FM T字型簡易アンテナ



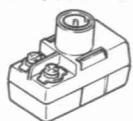
出力コード



電源コード



同軸ケーブル・平行ケーブル兼用コネクタ



アンプへの接続とセッティングについて

- ・ アンプに出力コードをつなぐときは
 - ①本機もアンプも電源を切ってください。
 - ②L(左)、R(右)を確認してください。
 - ③しっかり差し込んでください。
- ・ 出力コードを電源コード、スピーカーコードと一緒に束ねたり、ぐるぐる丸めないでください。ハムや雑音の原因になります。
- ・ テレビや他の受信機の近くに本機を置かないでください。相互の影響で良好に受信できないときがあります。
- ・ 本機の電源コードには極性表示(白のライン)があります。極性表示のあるコンセントやACアウトレットに接続するときは、極性を合わせて接続してください。また、極性表示のあるオーディオ製品と同時に接続するときも、極性を合わせて接続してください。
- ・ 本機は自動選局(オートサーチ選局)の機能を持っています。自動選局のとき、電波の状態が悪いと受信できない場合があります。こんなときはアンテナの方向、高さを変えたり、手動選局(マニュアル選局)にしたりしてください。
- ・ 近くの放送局を受信する場合、アンテナの素子数が多すぎたり、ブースター(増幅器)を使用したりすると、音がひずむ場合があります。こんなときは素子数の少ないアンテナを用いたり、ブースターをはずしたりしてください。

接続のしかた(アンテナの接続方法)

●FMアンテナの選択

FMの電波は放送局との距離、障害物など、地域によってさまざまです。ご購入店のアドバイスを、最適なアンテナを選んでください。

付属のT字型簡易アンテナは暫定的アンテナです。できるだけ屋外アンテナをご使用になることをおすすめします。

●FM屋外アンテナの設置

・図1のように道路から影になるような場所に、なるべく高く設置してください。

・アンテナの方向はシグナル・クオリティ・メーターが最も多く点灯する向きにしてください。

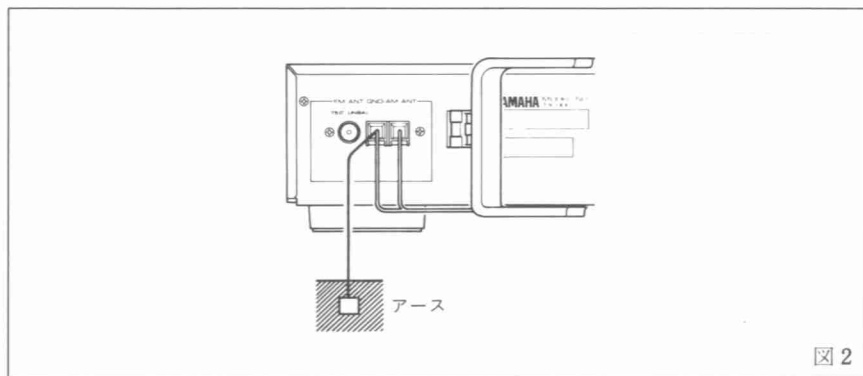


●アースについて

通常受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のため地中アースをとることをおすすめします。

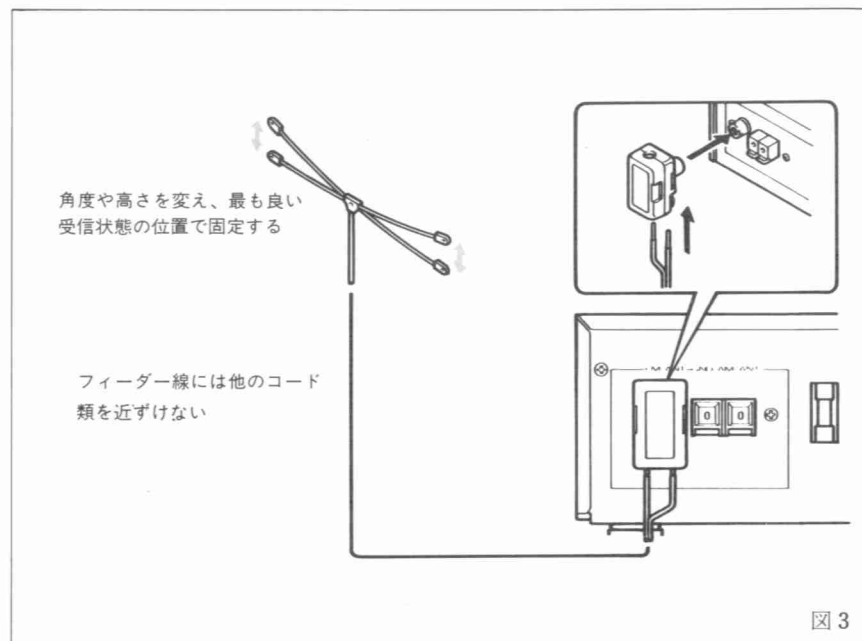
アースは市販のアース棒か銅板に導線を接続して湿気の多い地中に深く埋めてください。

水道管やガス管にアースを取り付けることは感電や火災等の危険防止のため絶対におやめください。



●FM T字型簡易アンテナの設置

図3のように、アンテナのフィーダー線をFMアンテナ端子に接続します。(接続方法は10ページの「平行ケーブルの接続方法」をご覧ください。) 水平部分をたるみがないようにピンと張り、シグナル・クオリティ・メーターを見ながらゆっくりと高さや角度を変えて最も受信状態の良い方向を選び、壁などに固定します。

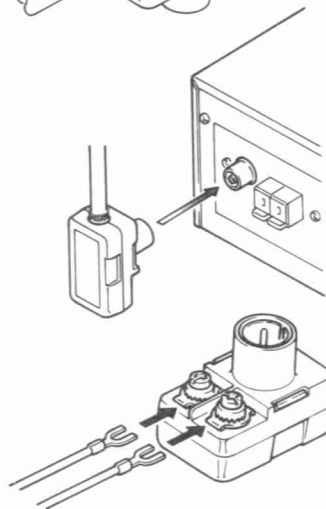
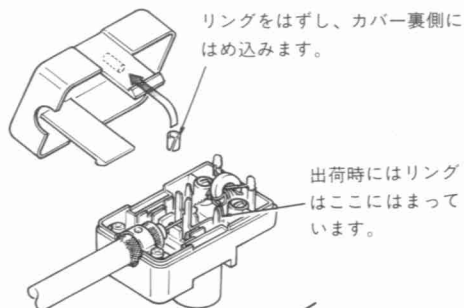
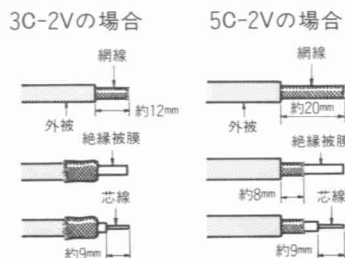


●FMアンテナ・ケーブルの接続

- ・本機へFMアンテナを接続するには付属の同軸ケーブル・平行ケーブル兼用コネクタを使用します。
- ・平行ケーブルは外来雑音(自動車プラグのノイズなど)の影響を受けやすいので、同軸ケーブルの使用をおすすめします。
- ・同軸ケーブルにはその代表として3C-2Vや5C-2Vなどがありますが、長い距離を引きまわすには入力電波の減衰の少ない5C-2Vが有利です。

同軸ケーブルの接続方法

- ①同軸ケーブルの外被の先端をむきます。
 - ・ 3C-2Vの場合は
約12mmむき、網線を後方にかえします。
 - ・ 5C-2Vの場合は
約20mmむき、さらに網線を約8mmのこして切りとります。
- ②次に絶縁被膜を約9mmむき芯線を出します。
- ③付属の同軸ケーブル・平行ケーブル兼用コネクタの同軸ケーブル接続部分のカバーをはずします。
- ④コネクタにはめてあるリングをはずし、カバー裏側の突起ヘリングをはめ込みます。
- ⑤芯線と網線を押しえつけるネジを緩め、同軸ケーブルを差し込んで、再びネジをしめつけます。
- ⑥コネクタのカバーをはめ、本体のFMアンテナ端子に差し込みます。



平行ケーブルの接続方法

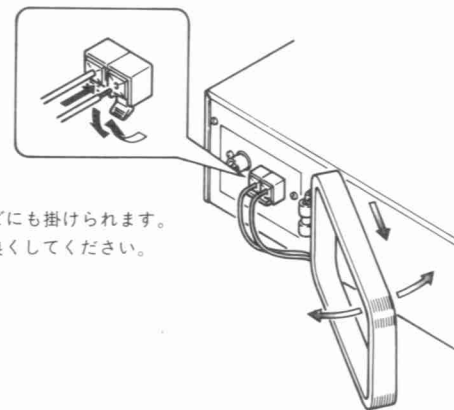
- ①付属の同軸ケーブル・平行ケーブル兼用コネクタの平行ケーブル接続部分をゆるめ、平行ケーブルをはさんで、再びネジをしめつけます。
- ②本体のFMアンテナ端子に差し込みます。

AMアンテナについて

● AMループアンテナの接続

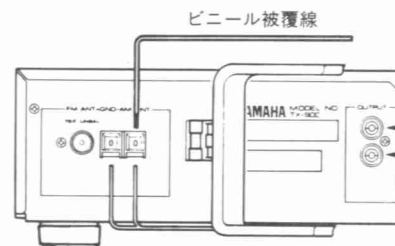
付属のAMループアンテナを図の様にホルダーに取り付けます。次に、AMループアンテナのコードをAM端子に接続します。シグナル・クオリティ・メーターを見ながらループアンテナを左右に回し、受信の状態が最良になる方向を探してください。さらに受信状態を良くするために、ループアンテナをホルダーから外し、壁などに掛けて使用することもできます。ただし壁が金属や鉄筋の場合は、受信状態が悪くなる事がありますのでご注意ください。

取りはずしは簡単にできます。
チューナーからはずして壁などにも掛けられます。
方向を変え、受信状態を最も良くしてください。



● AMリードアンテナの接続

ループアンテナを調整しても受信状態が良くならないときは、ループアンテナを接続したままで、下図のようにビニール被覆線5~10mを屋外に張り、AMアンテナ端子に接続してください。



FM、AM放送の受信のしかた

まず、電源コード、アンテナ、プリメインアンプなどが正しく接続されていることを確認し、POWERスイッチを押してください。

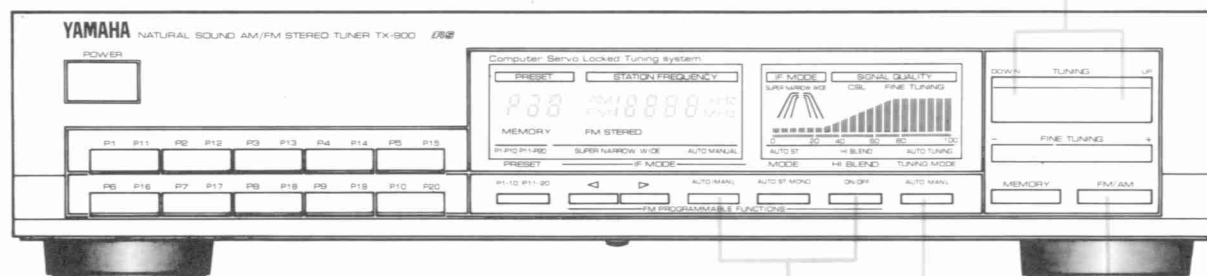
●自動選局(オートサーチ選局)のしかた

電波が強く妨害のない放送局を選局する場合に、スピーディな自動選局ができます。

<手順>

- ①FM/AM切換ボタンでFMかAMを選びます。
- ②TUNING MODEをAUTOにします。
- ③FM放送の場合、FM MODEをAUTO STEREO、IF MODEをAUTOにし、HI BLENDをOFFにします。
- ④TUNINGボタンのUP側またはDOWN側を押すと、周波数が自動的に変化して放送局のあるところで止まり、放送を受信します。
- ⑤止まったところが希望の放送局でない場合、もう一度TUNINGボタンを押して選局を続けます。

※ビルの室内など電波の弱いところで自動選局した場合、選局がいつまでも止まらないことがあります。この場合、TUNING MODEをMAN'Lにして、手動選局で受信してください。



- ④ 選局したい放送局の表示周波数に近い方を押す
- ⑤ 別の放送局の場合はもう一度押す

●手動選局(マニュアルサーチ選局)のしかた

聞きたい放送局の電波が弱い場合、自動選局では受信できないことがあります。このような場合には手動選局が効果的です。

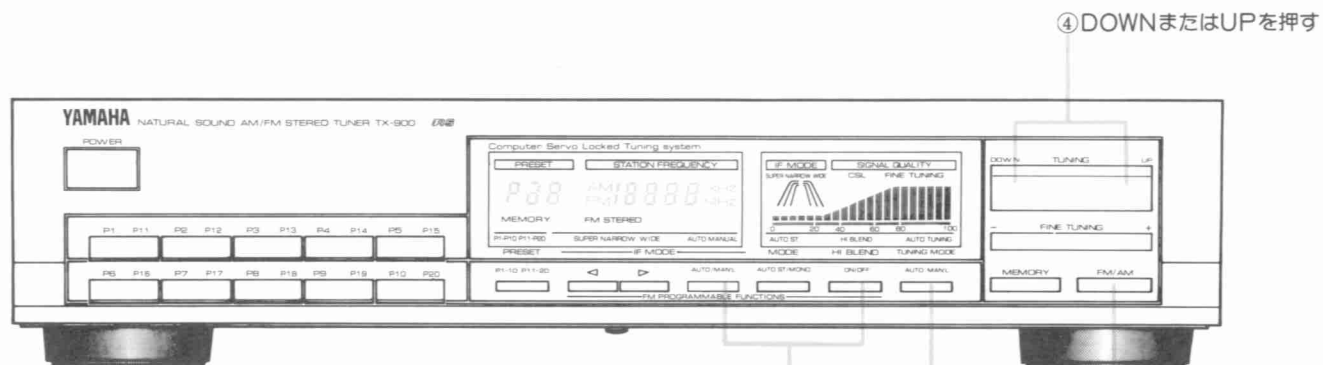
<手順>

- ①FM/AM切換ボタンでFMかAMを選びます。
- ②TUNING MODEをMAN'Lにします。
- ③FM放送の場合、FM MODEをAUTO STEREO、IF MODEをAUTOにし、HI BLENDをOFFにします。
- ④TUNINGボタンのUP側またはDOWN側を押し、聞きたい放送局を選局します。この場合、押し続けると周波数が早く変化しますので、聞きたい放送局の少し手前でストップし、あとは1回ずつ押して周波数を合わせます。
- ⑤FMがステレオ放送の場合でノイズの多い場合は、HI BLENDをONにします。この状態でまだノイズが多い場合はFM MODEをMONOにします。

- ③ AUTO STEREOに、IF MODEをAUTOにし、HI BLENDをOFFに

- ② AUTO TUNINGに

- ① FMまたはAMを選択する



④ DOWNまたはUPを押す

⑤ AUTO STEREOに、IF MODEをAUTOにし、HI BLENDをOFFに
ノイズが多い場合、ONに、まだノイズが多い場合はMONOにする

② MAN'Lにする ① FMまたはAMを選択する

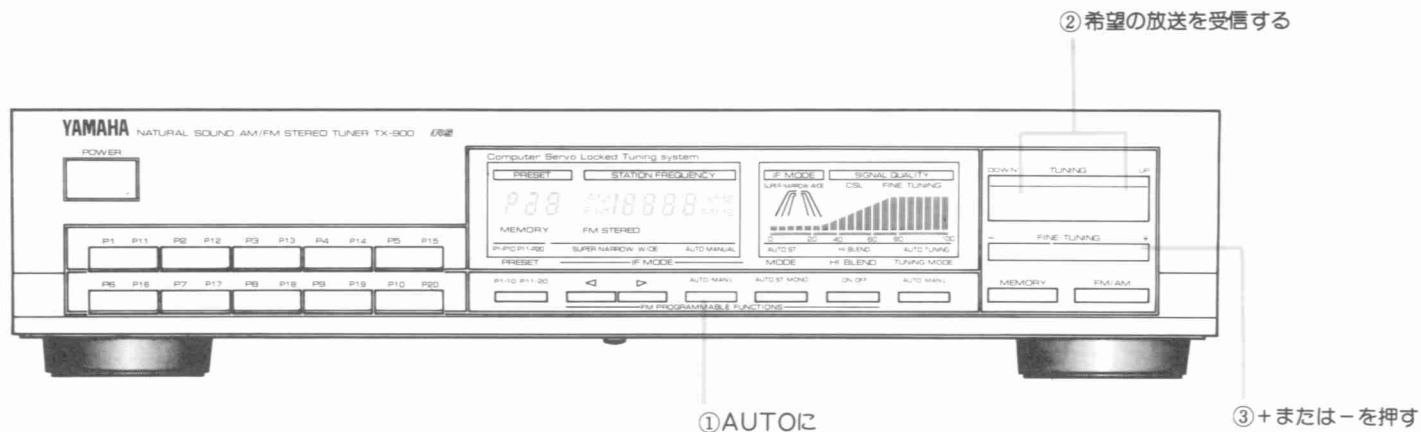
● ファイン・チューニングのしかた

自動選局または手動選局でチューニングしても良い受信状態が得られない場合、電波状態によってはファイン・チューニングが効果的です。

<手順>

- ① FM放送を受信する場合は、IF MODEをAUTOに切り換えます。
- ② 自動選局または手動選局で希望の放送を受信します。
- ③ FINE TUNINGボタンの+または-側を押して、最適な受信になるよう微調整します。

※微調整はFMの場合、0.01MHz、AMの場合1KHz単位で調整できます。



② 希望の放送を受信する

① AUTOに

③ +または-を押す

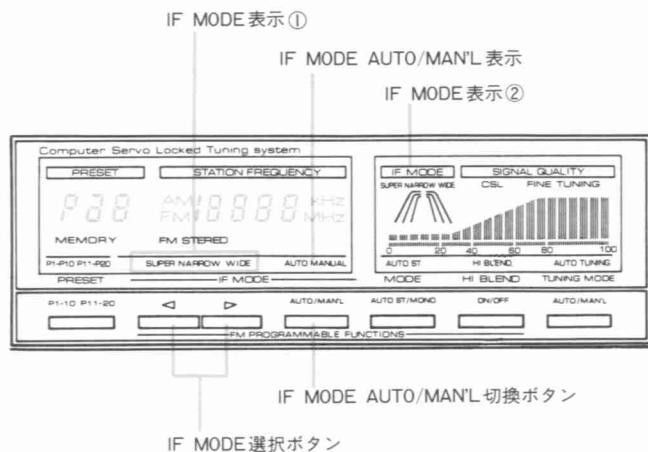
よりよい受信のために

TX-900には受信したい放送をより確実に、美しい音で聞くために、さまざまな機能とスイッチが設けられています。

アイエフ ●IF モード選択機能

FM放送を受信する際、IFフィルターの働きにより、受信する電波の帯域(幅)を3段階で選ぶ機能です。受信状態のよい局を受ける場合には帯域は広い(ワイド)ほうがひびきが少ないのですが、同時に隣接する他局の影響を受けやすく、放送が混信する場合があります。

この場合には、受信帯域を狭くしてやることで、シャープで混信のない受信が可能になります。活用には以下のボタンを使用してください。



アイエフ モード オート マニュアル IF MODE AUTO/MAN'L 切換ボタン

IFモードの切り換えをAUTO(自動)にするか、MAN'L(手動)にするか選ぶボタンです。AUTOにすると上のAUTOインジケーターが点灯し、電波の状態をコンピューターが判断して、最適なモードを選んでくれます。

アイエフ モード IF MODE 選択ボタン

あなたの手でIFモードを選ぶボタンです。このボタンを押すとIFモード選択は自動的にマニュアルに切り換わります。

モードはSUPER NARROW、NARROW、WIDEの3段階あり、ボタンの右側を押すと広い方(WIDE側)へ、ボタンの左側を押すと狭い方(SUPER NARROW側)へ切り換わります。

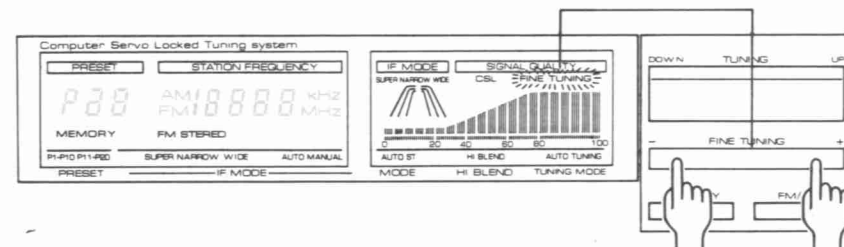
それぞれのモードはIF MODE表示が教えてくれます。

●ファイン・チューニング機能

選局の際にFMは0.01MHz、AMは1KHzの単位で、きめ細かく周波数が調節できます。

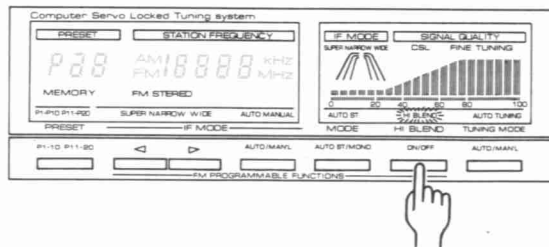
この機能は次のケースで、より音のよい、安定した受信に効果を発揮します。

- ・多くの電波がこみあっている受信エリアで希望の局を受ける場合。
- ・強い電波に隣接した中～弱電波の局を受ける場合。
- ・ビート音などで音がひびく場合。



●ハイ・ブレンド機能

電波の弱いFMステレオ放送を受信した際、高域の雑音が目ざわりな場合があります。ハイ・ブレンド機能はこれらの場合、音域の雑音成分のみを左右混合して、ステレオ感をそこなわずに雑音のみを減らす働きをします。



ハイ ブレンド HI・BLENDボタン

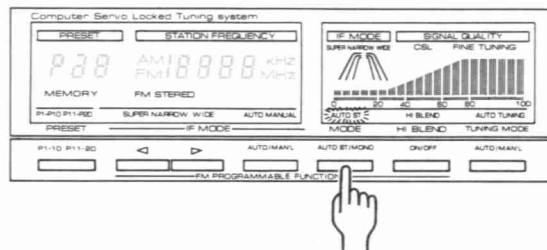
スイッチを押すと上のハイ・ブレンドインジケータが点灯し、FMステレオ放送の高域雑音を減らします。

●FMステレオ・モノラル切り換え機能

ハイ・ブレンド機能を利用しても、なおFMステレオ放送が目ざわりな場合があります。このようなときは放送をモノラルで受信しますと、雑音やひずみの低減に効果があります。

エフエム モード FM MODE選択ボタン

ボタンを押すとオート・ステレオ、モノラルの切り換えができます。オート・ステレオ・モードにするとFMがステレオ放送の場合は上のFM STEREO表示が点灯し、自動的にステレオ放送が聞けます。モノラル・モードの場合は放送がステレオでもモノラル受信となり、FM STEREO表示は点灯しません。



●CSLチューニング機能

本機は10倍精度PLLモードとFMサーボモードの、ふたつのチューニングモードによって構成されたCSL(コンピューター・サーボ・ロック)チューニングシステムを採用しています。

PLLモードは10倍精度で周波数の設定を行うため、IFのオフセットを10KHz単位の精度で正確に追い込むことができます。そして一定レベル以上の入力があれば、自動的にFMサーボモードに切り換わり、IF帯域の中心点にロックされるため、正確でひずみの少ない美しいハイファイ受信ができます。

プリセット・メモリーとプリセット選局

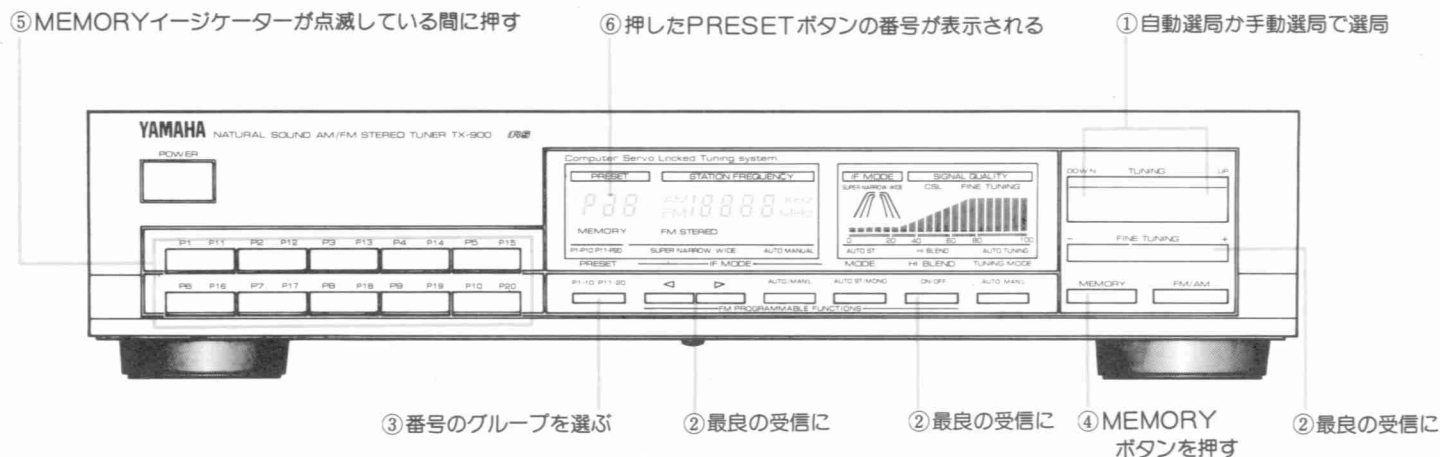
PRESETボタンに受信周波数(FMの場合はIF MODE, FM MODEのAUTO STEREO/MONOとHI BLENDのON・OFFも)を記憶させて、放送局を捜さずにPRESETボタンで選局できます。

〈プリセット・メモリーの手順〉

- ①自動選局または手動選局で希望の放送局を選びます。
- ②必要な場合はFINE TUNINGおよびIF MODE選択、FM MODEのAUTO STEREO/MONO、HI BLENDのON・OFFで、さらに最適な受信状態にします。
- ③PRESETモード切換ボタンを押してプリセットしたい番号のグループを選びます。
たとえば、P 3に記憶させたい場合は[P 1～10]のインジケーターが点灯するように、P 18に記憶させたい場合は[P 11～20]のインジケーターが点灯するようにボタンを押してください。

- ④MEMORYボタンを押します。
- ⑤MEMORY表示インジケーターが点滅している間(約5.5秒)に、希望するPRESETボタンを押します。
- ⑥PRESET番号インジケーターに押したPRESETボタンの番号が表示されます。

※プリセットの内容を変更したい場合は、内容を変えて上の①～⑥の手順をくり返してください。前の記憶が消えて、新しい内容がプリセットされます。



〈プリセット選局の手順〉

- ①PRESETモード切換ボタンで、受信を希望するPRESET番号のグループを選びます。
- ②呼びだしたい放送局の番号のPRESETボタンを押します。

ラスト・チャンネル・メモリー

本機は電源を切っても、その直前の放送局および受信モードを記憶しています。再度電源を入れたときや、タイマーを使用したときは、電源を切る直前の放送局、受信モードになります。

メモリー内容の保持について

本機はプリセットメモリーを消さない特殊なコンデンサーを内蔵しています。しばらく(約1時間)通電してからプリセットした内容は、ご使用にならなくても7日程度は保持できます。

RS機器との接続

RSリモコン操作機能

RSリモコン操作機能とは複数のヤマハ製オーディオ機器をひとつのリモートコントロールユニットで操作するために設けられた機能です。本機のリアパネルに付いているRS端子をRSマークの付いたアンプ(AVC-50など)に接続すると、プリセットモード〔P1～P10〕、〔P11～P20〕の切り換えとプリセット選局がアンプのリモートコントロールで操作できます。

参考仕様

●FMセクション

受信周波数	76.0~90.0MHz
50dB S/N感度	
MONO(75Ω)	1.55 μ V(15.1dBf)
STEREO(75Ω)	20 μ V(37.2dBf)
実用感度(MONO, 30dB S/N)	
75Ω	0.9 μ V(10.3dBf)
イメージ妨害比(84MHz)	90dB
IF妨害比(84MHz)	110dB
スプリアス妨害比(84MHz)	110dB
AM抑圧比(IHF)	70dB
実効選択度(IHF)	90dB
キャプチャレシオ(IHF)	1.2dB
SN比(IHF)	
MONO	100dB
STEREO	91dB
全高調波歪率	
MONO(1KHz)	0.0095%
STEREO(1KHz)	0.015%
ステレオレパレーション	
1KHz	65dB
周波数特性	20Hz~15KHz \pm 0.5dB

●AMセクション

受信周波数	531~1,620KHz
実用感度(IHF)	250 μ V/m
選択度	32dB
SN比	52dB
イメージ妨害比	40dB
スプリアス妨害比	50dB
全高調波歪率	0.3%

●オーディオセクション

出力レベル/インピーダンス	
FM(100%変調, 1KHz)	500mV/2K Ω
AM(30%変調, 400Hz)	150mV/2K Ω

●総合

定格電源電圧・周波数	AC100V 50/60Hz
定格消費電圧	10W
外型寸法(W×H×D)	435×94×282.5mm
重量	3.3kg
付属品	FM T字型簡易アンテナ 1
	AMループアンテナ 1
	同軸ケーブル・平行ケーブル兼用コネクタ 1
	出力コード 1
	電源コード 1

※仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがあります。

故障かな、と思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ・サービスをご依頼ください。

	どんな状態ですか	原因はここです	こうすればOK
FM放送受信時のトラブル	"バリバリ"、"ガリガリ"という雑音が時々入る(電波の弱い地域ほど著しい)	モーターバイクや自動車などのイグニッションノイズ	FM専用アンテナをできるだけ高く、道路から離れた位置に建て、同軸ケーブルを使用してください
		サーモスタットつき電気器具の雑音	雑音を発生している電気器具に雑音防止器を取り付けてみてください
	ステレオ放送になると雑音が多くなり聞きづらい	FMステレオ放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合に起こる	アンテナの接続を確認してください
			FM専用アンテナを建ててください
			HI BLENDボタンをONにしてください
	自動選局ができない	FM専用アンテナの向きを変えてみるか、多素子のものにしてみてください	手動あるいはファインチューニングで選局してみてください
	ステレオ放送受信時、FM STELEO表示ランプがチカチカ点滅し、雑音も多い		電界強度が弱い
	チューニングが合っていない	FM MODE選択ボタンをMONOにしてみてください	
ステレオ受信できない	FM MODEボタンがMONOになっている	FM MODEボタンをAUTO STにしてみてください	
プリセット・チューニングができない	長い間使用しなかったため、メモリーが消えている	もう一度プリセットしてください	
AM放送受信時のトラブル	感度が充分にない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続や方向があっていない	AMループアンテナの方向を変えてみてください
	自動選局ができない		AMループアンテナを取り付け直してください
			屋外にAM用アンテナを張ってみてください
		手動で選局してみてください	
"ジー"、"ザー"、"ガリガリ"など連続雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具による雑音	AM用屋外アンテナを張り、アースを完全にとると減少しますが、完全に除去するのは困難です	
"ピー"、"チー"、"シー"などの音が入る	隣接局の電波が受信中の放送周波数と干渉を起している	AMループアンテナの向きを変えてみてください	
	テレビなどをそばで使用している	テレビから離して使用してみます	

ヤマハ ホットライン・サービス ネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL(011)781-3621
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(0222)36-0249
東京	〒211 川崎市中原区本月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(0252)43-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 日本楽器宮竹工場内北側 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 ステレオ北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F ステレオ仙台営業所 TEL(0222)23-1376
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F ステレオ首都圏営業所 TEL(03)255-5691 ステレオ神田営業所 TEL(03)255-6767 ステレオ北関東営業所 TEL(03)255-1825 ステレオ東京営業所 TEL(03)255-2302
名古屋	〒464 名古屋市中区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 ステレオ名古屋営業所 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 ステレオ関西営業所 TEL(06)647-6411 ステレオ大阪営業所 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いよぎん広島ビル内 ステレオ中四国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 ステレオ九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 ステレオ事業部 国内営業部 TEL(0534)60-3421

日本楽器製造株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

オーディオ事業部国内営業部 TEL.(0534)60-3421

管理部サービス技術課 TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。